

自己点検・評価報告書

NSA 日本語学校

実施日：令和6年(2024年)8月27日
実施責任者：校長 松本知恵
実施担当者：古田美幸、伊藤美穂、蒲生あゆみ

「日本語教育機関の告示基準」の規定に則り、各点検・評価項目は以下の5段階で評価を行い、十分達成されていないものは今後の課題を挙げた。

- A 達成されている
- B 概ね達成されているが、不十分なところがあり、改善に取り組んでいる
- C 達成に向けて努力している
- D 達成されていないこれから取り組む
- X 該当しない

1.教育の理念・目標

評価：A

当校の理念である「多文化共生社会の実現に貢献できる人材の育成」を実現するため以下の3点を教育目標に掲げている。

- (1) 日本の文化やルールを理解し、自文化を日本語で伝えられるようになること
- (2) 日本語を生かして地域の人と協働できるようになること
- (3) 日本で進学・就職できる日本語能力を身に着けること

内外に学校理念を浸透させるため、2024年度はNSA日本語学校のMission、Vision、Valueを以下の通り定めた。

Mission：未来への灯火

Vision：多文化共生社会で活躍する人材の育成と学びの場の提供

Value：誠実さと異文化理解、留学生と共に学び成長する相互学習

学校パンフレットおよび職員の名刺デザインの刷新を行った。またホームページも近日中にリニューアルし、より学校の理念が伝わるデザインに変える予定である。

2. 学校運営

評価：A

日本語教育機関の告示基準を満たす教職員・設備が整っている。適切な在籍管理を実施しており、2023年10月にも適正校クラス1の評価をいただくことができた。組織運営および財務管理については、定期的な幹部会議のほか、教務課・学務課・総務課長を交えて共有・実行を行い、より組織的かつ効率的な学校運営を行っている。今後も適正な在籍管理及び組織運営を実施する。

3. 教育活動

評価：A

当校は初級、初中級、中級、上級の4課程がある。年4回の学内試験および出席、課題の提出状況により成績評価をおこなっている。成績評価や進級、修了の判定基準は入学時のオリエンテーション時に、学生が理解できる言語で周知している。

当校の教育理念の柱である多文化共生を体現するため、初級レベルから積極的に「相手の文化を知る」「自分の文化を伝える」活動を日常的に教室活動に入れている。2024年2月には文化祭を開催し、近隣の小学生と高校生を招待し、自分たちの文化を地域の人に知ってもらう機会を設けることができた。また、当校では1つの教室に必ず複数の国籍の学生が在籍するように学生募集をしているが、クラスメイトとの交流を深めるための取り組みとして、名古屋城ウォークラリーや、運動会などのイベントを行い、絆を深めることができた。

教員の指導力向上のため、新任の教員については学内で研修を行っている。教育課程改善のため、学期ごとに教員ミーティング、月ごとに学年別教員ミーティングを行っている。また、前年度に引き続き積極的に外部研修にも教員を参加させ、教育能力のレベルアップを図っている。また、JLPT対策授業・模擬試験および、大学・専門学校等を招いた体験授業の実施を行っている。

4. 学修成果

評価：B

各クラスに担任を設け、担任教員が試験後に学生にフィードバックを実施している。進学及び就職については、1年目の冬から進路ガイダンスを実施し、早期から卒業後の自分をイメージして進路を選択できるようにキャリア教育を実施している。日本語能力試験の対策

だけでなく、受験校及び就職希望先の選択から受験準備、合格後の手続きまでの指導を丁寧に行い、生徒の進路を適切に把握できている。2023年度の課程修了者のうち基準該当者割合は98.1%であった。

5. 学生支援

評価：A

4で述べたほか、事故やケガ、寮における生活トラブルなどに対し迅速に対応している。また在留資格の更新については、入学時から定期的にアルバイト状況の管理を行っており、2024年度も更新希望者全員が在留資格の更新をすることができた。

2024年度はオリエンテーションビデオを7か国語で作成し、新入生オリエンテーションおよび在校生への生活指導に活用している。今まで口頭又は文書で伝えるしかなかったが、映像化し、学生がいつでもどこでも見られるようにインターネット上に公開（ただしIDとパスワードが必要）することで、利便性を高めることができた。

学生の入学時にごみの分別など日本ルールの生活指導を行っている。また入国1年目の学生を防災センターに連れて行き、学外においても防災教育を受ける機会を設けている。今年7月には地震による火災の発生を想定した避難訓練を実施した。今後も生活および防災についての教育を高め、学生の留學生活の質の向上に貢献したい。

進路指導については1年次からクラス担任が定期的に面談を行い、2年次からは学生の目的に応じて、進学指導および就職指導を行う体制ができた。

6. 教育環境

評価：B

今年度は館内の空調設備及びトイレ改修を行い、学校生活をより快適にすることができた。各教室に大型テレビモニターを配置し、後列からも十分に見えるようにした。

今年度から漢字の指導教材を主教材に合わせて変更することにした。より学習しやすくなると期待している。

避難訓練を行ったことで避難ルート上の障害物を片付ける、避難ルートを見直すなどの課題が明確になった。今年度中に改善したい。

7. 入学者の募集

評価：A

入学者の募集・選考にあたり、事前に入学希望者および送り出し機関に対して入学説明会を実施し、学校理念や入学条件、留學費用などを理解した者のみ面接試験を実施している。面接では学業成績、学習意欲の有無、留學理由と目的、経費支弁能力を確認している。学校

規則、学習期間及び卒業条件については入学時オリエンテーションで通訳による説明を行っている。

入学辞退・退学者については該当者の状況を十分に勘案したうえで審議を行い、本人の意思を確認したうえで判断している。学費の返金についても事前に説明した募集要項の通り適切に対処している。

8.財務

評価：B

2022年4月生より学生の入学が再開し、経営基盤は安定しつつある。予算・収支計画についても適切に執行しており、大きな財政的支障はない。今年度は教室の改修のために一時的に支出が大きくなる見込みだが、学生募集が順調にできており、十分に費用を賄うことができる見込みである。

会計監査については税理士による定期点検を受けており、財務状況の公開を求められた場合、公開する体制が整っている。

9.法令順守

評価：A

出入国管理及び難民認定法および各種関係法令を遵守し、適切な運営ができています。学生にも入学時に学生が理解できる言語で作成されたオリエンテーションビデオや通訳による説明を行っている。自己点検・自己評価についてもHPで公開し、開かれた学校運営に努めている。

10.地域貢献・社会貢献

評価：A

県内の大学の日本語教員を目指す大学生の教育実習生の受け入れをしている。また、近隣の小学校および県内の大学、社内にある通信制高校サポート校の生徒との交流が定着しつつある。カリキュラムの中に日本人との交流会を組み込んでおり、学生たちが生の日本語に触れ、実力を試す機会を設けている。近隣の小学校とは、毎年5年生を対象に交流会を実施しており、児童たちの総合的な学習の一助となっている。

今年は名古屋市内の中学校の社会人講座に当校の留学生と職員を派遣し、生徒たちとの交流を行った。また、高校のインターンシップの受け入れも行っており、地域社会に多文化共生を考え、学ぶ場を提供している。

認定NPO法人TABLE FOR TWO主催のおにぎりアクションという活動に毎年秋に参

加している。おにぎりアクションとは、日本の代表的な食である「おにぎり」の写真を SNS (Instagram, X(Twitter), Facebook)、または特設サイトに投稿すると、1枚の写真投稿につき給食 5 食分を協賛企業を通じてアフリカ・アジアの子どもたちにプレゼントできる取り組みである。学生たちに日本の食文化を伝えるだけでなく、社会貢献にもなる活動であるため、今後も継続して参加していきたい。

また、定期的に学校周辺の清掃ボランティア活動を実施している。

公開講座はコロナ後実施ができていないが、3.で記述した通り地域の小学生と高校生を文化祭に招待することができた。今後も地域との交流を深めていきたい。